

西南戦争を掘り，学ぶ事業 ～掘り（発掘調査）の紹介～

埋蔵文化財センター

西南戦争を掘り，学ぶ事業とは？

鹿児島県には、明治10年に起こった西南戦争関連の遺跡が各地に残っていますが、その多くが未調査のままとなっています。当センターでは、それらの内容・状態を把握・記録するための発掘調査を実施しています（「掘り」）。そして、その成果を県民に紹介する基礎資料も作成し、学校での授業支援や地域での講演会などを行い（「学ぶ」）、「ふるさと鹿児島」の歴史をより身近に感じ、郷土に誇りと愛着をもつ”きっかけ作り”に取り組んでいます。

1 これまでの「掘り」（発掘調査）事業

本事業では、これまで平成30年度に滝ノ上火薬製造所跡（鹿児島市）、令和元年度に高熊山激戦地跡（伊佐市）、笠取戦跡（霧島市）の発掘調査を実施しました。

滝ノ上火薬製造所跡は、幕末から明治10年まで稼働した、当時日本最大級の火薬製造所で、西南戦争勃発の契機となった場所でもありました。平成5年の「8・6水害」の際、その多くが失われた可能性が高いと考えられてきましたが、調査の結果、当時の石垣や水路跡などが残っていることを確認することができました。



【滝ノ上火薬製造所跡】

2 令和2年度の「掘り」（発掘調査）事業

岩川官軍墓地（曾於市大隅町岩川）

本年度は5～6月に岩川官軍墓地の発掘調査を実施しました。

岩川の官軍墓地は、岩川その他、鹿屋市百引や大崎町野方の戦場で亡くなった官軍（政府軍）の戦死者を埋葬した墓地です。陸軍大尉，少尉，少尉

試補や、下士官、兵卒、^{ぎよそつ} 馭卒、軍夫など80基余りの墓石があります。なお、墓石はすべて天草下浦石（砂岩）とされています。

調査では墓跡周辺を少し掘り下げ、墓穴や墓石の残骸などの有無を調査するとともに、墓地の詳細な配置図も作成しました。



【岩川官軍墓地】

薩軍の墓（曾於市末吉町岩崎）

岩川官軍墓地から菱田川を隔てて、東方向に車で5分ほど走った台地先端部に、薩軍（西郷軍）のものとされる墓がひっそりと残されています。数多くの墓石が整然と並んでいる官軍墓地とは対照的に、径が2.7mほどの塚の上に自然石が置かれただけの質素な墓地となっています。刻字もなく、誰が葬られているかは不明です。今回の調査では、墓の位置を含む周辺地形図の作成や写真撮影を行いました。



【薩軍の墓】

今後の予定

本年度は、これらの調査成果を整理し、調査報告書をまとめる予定です。保存・活用のための基礎資料となるように、調査・精査を進めていきます。